

支部便り

中国四国支部第7回講演大会報告と雑感

Report of the 7th annual meeting in Chugoku and Shikoku branch
and my impressions

竹元 嘉利*

Yoshito TAKEMOTO*

平成27年7月4日(土)に中国四国支部第7回講演大会が岡山大学工学部にて開催されました。例年通り午後からのスタートで、支部長(広島大 佐々木先生)のあいさつから始まり、その後、2会場に分かれて講演大会が行われました。講演件数は30件(学生23件、一般7件)で、アルミニウム、チタン、マグネシウムをはじめ、複合材料についての熱気の高まったセッションが繰り広げられました。夕方からは大学生協で懇親会が開かれ、学生、教員、企業の方々を交えた楽しいひとときを過ごすことができました。懇親会には50名が参加し、後半には講演大会で優秀な発表を行った学生に優秀講演賞が、一般の方には研究・開発奨励賞が支部長より授与されました。午後7時半には懇親会も滞りなく終了しましたが、夕方から降り始めた雨がひどくなり、帰りの皆様が大変不自由な思いをさせたことが残念でした。表向きの大会報告は以上ですが、以下に、支部大会についての雑感を述べていただきます。

私は支部大会にはこれまで、第2回目(岡山理大)、第5回目(香川大)、第6回目(鳥根大)に参加させていただきました。その第5回目の懇親会の折、愛媛大の仲井先生と岡山理大の金谷先生から突然、羽交い締めになされ、第7回目を岡山で開催するようステレオサウンドで要請があり、喜んで(?)お引き受けしたことで今回の大会責任者となりました。実はこの支部講演大会は毎回大変楽しい大会で、個人的に最も参加したい学会の1つです。全体に手作り感満載で、格式にこだわらず、なんとといっても大はしゃぎな懇親会は、恐らくこの大会を立ち上げた仲井先生と金谷先生ならではのスタイルが受け継がれているためだと思います。

この支部大会の面白いところは、講演概要がたったの200文字以内に決められており、図も表も不可といった、簡潔な文章に真意を込めるところにあります。私も2回ほど講演をさせていただいたとき、概要をまとめるのに大変苦労しましたが、俳句や短歌にも似た世界観でまとめることの重要性を認識し、かえってそれを楽しむことができました。今回も洗練された多くの概要を拝見し、それぞれ筆者のご苦労をうかがい知ることができました。

支部大会で最も面白いのは懇親会です。学生の参加が非常に多く、所属間の垣根を越えて皆で大はしゃぎをしています。ともすれば、同じ大学の学生同士で飲んでいたり、教員同士で話し込んでいたり…といった風景が多いなかで、この

支部大会の懇親会はまったく異なり、他大学間で情報交換して、いろいろな大学の友だちを作る場として大いに役だっています。例年そのような状況なので、学部生やM1の参加学生は、また来年も参加したい、そのために研究を頑張りたいという強い思いを持つようです。

しかし今回は大会ホストということで私はかなり憂鬱でした。というのも懇親会の最中、お金の計算や各講演の採点の集計、賞状の印刷業務に追われるため、大好きな懇親会に参加できない(お酒が飲めない!)からです。しかもたった1時間でそれをやらないと、授賞式に間に合わないのです。途中何度も賞状の印刷はあきらめようと思いました。支部長印がうまく押せない!(やめよう…), 賞状の書式がくずれた!(やめよう…), O\$@☆※!…。それでも広島大の杉尾先生やDrの学生に何度も励まされ、助けられて、ようやく授賞式会場に賞状を届けることができました。そこで受賞された方々の笑顔に出会えたときは、大変うれしく救われた感じでした。これまで大会ホストを務めてきた方々の裏方努力に改めて敬意を表したいと思います。

このようなわけで、無事大会を終えることができたのは、多くの方々の暖かいご支援とご協力によるものであり、ここに感謝を申し上げますとともに、来年は鳥取で大いにはしゃぐぞ、と心に決めている次第です。



受賞した学生さんたち、とてもうれしそうです。